

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすい所に掲げている。理念を共有し、日々心に留めて実践に取り組んでいる。	「個人の尊厳を大切に」、「安心して過ごせる和我家」、「地域の人が気軽に来る和我家」という三つの理念を掲げているほか、年度ごとの活動目標として「気づきの心」、「気遣いの心」、「思いやりの心」、「おもてなしの心」を上げ実践に努めている。事務所に掲示し、利用契約時に本人や家族に法人理念をはじめとして説明している。スタッフ会議や申し送り時に意識づけも図っている。理念にそぐわないような言動が見られた場合には管理者が個別に注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設での行事の際は、地域の方に呼び掛け交流を図っている。	旧複合施設の建物の解体工事が始まり、隣接デイサービスの新築工事等で地区の方々との交流の機会が少なかったが、完成後の隣接デイサービスで行なわれた薊玉づくりやどんど焼き等で交流した。高校生や専門学校生などの実習の受け入れも継続している。小学校の音楽会や中学校の文化祭にも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	にしうち敬老園としては要請が無いので今のところ実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や、活動報告を毎回行っている。	家族や民生委員、市自治センター職員などが参加し開催している。会議では利用状況や活動報告を中心に課題などについて話し合っている。参加者から頂いた意見や助言は隣接デイサービスに関連したものもあり幅広く向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と主に運営推進会議を通じて連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市介護保険課主催の地域密着型サービス研修会に参加している。今年度すでに2回実施している。広域の担当者が介護認定更新の際にホームを訪れ、職員も情報を伝え、申請代行もしている。介護相談員2名が3ヶ月毎に来訪しており、利用者の要望・意見等をホームに伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行ったり、ミーティングを行ったりして職員の知識共有を図っている。職員は一人ひとりの居場所を確認しつつ、利用者が自由に行動できるよう配慮している。	法人の同じブロック内にある事業所全体で身体拘束をしないケアについての研修会を年1回開催し実践している。職員も身体拘束その他入居者の行動を抑制しない支援について正しく理解している。外出傾向の方には見守りを主に対応し、玄関も可能な限り開錠するようにしている。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を行い、高齢者虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての学習会が等への参加に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員が来園された際に1対1で話を聞いてもらっている。家族には面会時や電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム便りを発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている	自分の思い伝えられる利用者が約三分の二ほどいる。家族も通院介助を兼ねて遠方からも来訪しており、少なくとも月に1回はホームを訪れ要望等を伝えている。複合施設の工事のため家族会は実施できなかったが、誕生日に来訪していただくようにしている。家族あてに各利用者の写真入りの便りが担当職員から届けられ、ホームだよりも3ヶ月に1回発行し、意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、各職員の意見を聞き、運営に反映させるように努めている。	スタッフ会議が毎月第一月曜日の夕方から開かれ、全職員が出席し意見や提案を出している。また、申し送り時にも意見交換をしている。来年度から法人として「人事評価制度」が導入されるようになっており、職員からの意見や提案も運営面に活かされるようになっていく。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や事例検討等の意見交換を行い、親睦を図っている。また、活動を通じて出てきた意見をケアに取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面談を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ではまず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては他のサービスを勧めることも考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の想いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して、支援の方法、対応について意見をお聞きし、対応に反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、友人や家族と会ったり、家族との外泊や馴染みの場所に出かける機会を作っている。	利用後も知人や親戚がホームに来訪し歓談している利用者がある。家族の協力を得て馴染みの美容院へ行っていた利用者も高齢のため家族がホームでカットするようになってきている。大晦日やお正月に家族の元へ帰る方もいる。紅葉狩りなどの外出時に自宅近辺を巡って来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。孤立する事が無いように、場面作りや声掛けに配慮している。		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応する。終了の際に利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握出来るよう、日々関わりを持ち、探るよう努めている。本人本位の検討を心掛けている。	自分の思いや意向を伝えられない方が若干名いる。そのような方については表情や態度から推測している。本人や家族から利用前の暮らしぶりなどを聞いたり、食べ物の嗜好調査も行っている。毎日のレクリエーションも入居者一人ひとりに合わせ、塗り絵や計算ドリルをしたり、歌を歌ったりしている。誕生日には何が食べたいか、どんなケーキが良いかなども聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの方の現状の把握に努め、その現状に対する支援の仕方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	一年ごとにローテーションを組み、各職員が2名の利用者を受け持っている。担当者と管理者が相談しながら各利用者の介護計画を作成し、スタッフ会議で更に他の職員から意見を聞いている。3ヶ月毎にモニタリングを行い計画を見直している。計画については家族の来訪時に聞き取りしたり説明もしている。状態に変化が生じたり、要望に変更があった場合には直ちに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も個別記録に残し、その場になかった職員にも情報が伝わるように努め、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持、向上の目的も兼ね、併設のデイサービスの体操・レクリエーションに参加して頂いている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	研修ボランティアや学生ボランティアを受け入れている。また、地域消防団へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個別に記録と共に保管し、皆で共有している。	今年度から法人のクリニックの医師による訪問診療が月1回行われている。法人の訪問看護ステーションから月2回看護師が来訪しており、ホームの准看護師とともに健康チェックをし相談にのっている。専門医での受診や通院の付き添いについては家族にお願いしているが、緊急時や家族の都合によっては職員が付き添い結果を家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師一名を配置し、利用者の日常管理に努めると共に、必要に応じて医療活動の支援をしている。また、月2回の訪問看護があり、相談し、連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、できるだけ早期に退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、主治医、訪問看護師と連絡を取り、意見、情報交換をしている。また、状況に応じ、早い段階から医師に病状説明を願ひし、家族が安心して納得出来る最期を迎えられるよう支援している。	看取り介護に関する指針があり、契約時に重度化や終末期に関する事業所の方針を本人や家族に伝えている。法人内でのターミナルケアの勉強会も実施されている。昨年5月にお一人の方の看取りを行なった。状態を見ながら家族や主治医・看護師との話し合いを持ちながら支援に取り組んだ。他の利用者でも気にされる方もおり、うすうす状況を感じられていたが影響はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救命救急の勉強会を実施し、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るように努めている。	年2回、防災訓練を行っている。避難誘導訓練等を実施し、車椅子の方も含め入居者全員が訓練に参加している。隣接のデイサービスと合同の防災訓練も3月に予定されている。食料品や介護用品の備蓄もあり、スプリンクラー、自動火災報知器等の消防設備も完備されている。	

グループホームにうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシーを確保した上での関わりを大切にしている。	ホームの理念の第一番目に「尊厳を大切に」と大きく謳われている。法人のブロック別に研修も実施されている。職員も誇りやプライバシーを損ねない声かけやさりげない対応に心がけている。個人情報の取り扱いや守秘義務についても職員は十分認識し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作りに心掛けている。また、意思表示出来ない方には、職員の言葉掛けに対する表情等から想いを理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、外部からの理髪店の受入を行っている。また、行事の時などは、その場に合った身なりで参加して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、味付け、片付け等一連の作業を行っている。	約半数の利用者が刻みなどの対応が必要で場合によって全介助が必要となる方もいる。利用者も皮むきや下膳など出来る範囲で手伝っている。献立は法人の管理栄養士が作成しており、食材の発注はホームで行い、メニューをアレンジすることもある。誕生日には新しくなった隣接デイサービス厨房から初めて松花堂弁当を取りお祝いをしたこともあった。利用者と職員でホットケーキなどを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考える一方で、季節の食材をメニューに取り入れるなど、嗜好にも配慮している。水分量も確保出来るように、むせのある方にはトロミ剤やゼリーを使って対応している。形態にも考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外してケアをさせて頂き、口腔内の清潔に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要性に応じ、排泄チェック表を作成。そのパターンに合わせて声掛け、誘導を行っている。	約三分の一の利用者が自立しており、布パンツを使用している。リハビリパンツや布パンツにパットを使用している方も排泄パターンに沿い、定時に職員がさりげなく声がけしトイレでの排泄支援を行っている。夜間、安心のためポータブルトイレを居室に置いている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は、使用過多にならないようにその時の状況に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をし、対応している。	職員二人で介助する利用者もいるが、殆どの利用者は見守りだけで入浴出来ている。かけ流しの温泉で毎日入浴することができるが少なくとも週2回は入っている。時間なども一人ひとりに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方を職員で工夫し、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、内容を全職員がわかるように徹底している。また、変化等が見られる場合は随時記録をし、医療とスムーズな連携が図れるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を理解したうえで、利用者が充実した一日を過ごせるよう支援している。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出出来るようにしている。また車椅子等を使用し、歩行困難な方も外に出られるよう工夫している。また、家族の協力もあり、定期的に外出をしている。	旧複合施設の工事のため敷地内での散歩の機会が少なくなっているが、新年度には敷地が整備され遊歩道も設けられる予定なので全利用者が楽しみにしている。車椅子の方も四分の一ほどいるが、初詣や紅葉狩りなどで外出し、法人本部内にあるレストランで食事を楽しんでくることもある。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、お金を所持して買い物の際に支払えるよう家族とも相談し、取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば電話を貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。	玄関を入ると野菜の細かな種子を貼り付けて作成された「赤富士」が目に入り、催しや外出時のスナップ写真も張られホームでの生活が手に取るようにわかる。キッチン、居間兼食堂、小上がり、事務所なども広く余裕を感じる。小上がりには仏壇やコタツが置かれ、ソファも所々に置かれており寛げる。壁には利用者の愛唱している童謡や小学校唱歌の歌詞が張られていた。利用者が床暖房の効いたリビングの椅子に座り、全員で唄を歌い和やかな雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。(居間、日当たりの良い廊下等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者個々に合った居室作りに取り組んでいる。(以前から使用されている馴染みの家具や家族の写真等)	居室にはクローゼットとベッドが備え付けられている。床はフローリングであるが、畳を敷いている方もいる。居室には整理ダンス、テレビなどが置かれている。壁にスナップ写真や自分が作成した塗り絵などを張っている居室も見られた。居室の冷暖房はエアコンで調整されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下には全面手摺りを備え付け、安全な生活が送れるよう配慮している。		